



社内の3S活動

主な事業内容

アルミ・チタン・ステンレスなどの精密切削など金属加工

主な取引先(納入先)

包装機、製水機、半導体製造装置メーカー、病院、介護施設、介護タクシーなど

主な製品

医療・介護用福祉機器、包装機部品、製水機工パポレーター(氷をつくる器)

株式会社 樋原製作所

高品質産業装置部品の製造
ノウハウで福祉機器を製品化

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンライン技術
- メインジャンル
- 試作可小ロット

業務内容
先端産業に関わり
ノウハウを蓄積

樋原製作所は、食品包装機部品や製水機部品などの金属加工を手がける。創業は昭和35年。ディーズルエンジン部品からスタートし、高度経済成長の波に乗って事業を拡大した。48年のオイルショックでダメージを被ったが、これを契機に販路の多角化を模索。液晶・半導体製造装置部品、多関節ロボット部品などの加工で新規顧客を獲得し、同時に加工ノウハウを蓄積した。

平成22年からは、培ってきた技術を生かして医療・福祉分野向けの自社製品開発にも着手。新たな市場で着実に成果を積み上げる。樋原明徳社長は「声がかかることも多くなってきた」と自信を見せる。

強み
VE提案で顧客製品の品質向上、コストダウンに貢献

治工具から設計・製作することで、他社が難色を示すような複雑形状、薄肉加工を可能にしている。クリーンルームで用いられるロボット部品など高精度・高品質が求められる市場でのものづくり経験から、製品品質、コストの改善を顧客にもたらす「VE(価値工学)提案」

社長あいさつ



代表取締役社長
樋原 明徳さん

経営理念の「謝恩報徳」を実践するため、蓄積した技術を医療・福祉機器の分野に生かしています。テクノイド協会の福祉用具情報システム(TAIS)に3品目4種を登録し、さらに病院への寄贈も行っています。2025年大阪・関西万博に向けてさらに発展させていきます。

主な保有設備

- マシニングセンター (1,000mm×515mm×520mm 1万rpm) オークマ製 1台
- マシニングセンター (900mm×500mm×500mm 2P 2万rpm) 牧野フライス製作所製 1台
- 横型マシニングセンター (630mm×600mm×650mm 2P 1万2,000rpm) DMG森精機製 1台
- NC複合旋盤(φ390mm×1,035mm 4,000rpm) DMG森精機製 2台
- 3次元測定機 (1,005mm×705mm×510mm) ミットヨ製 2台



住 所 / 〒590-0153
堺市南区
大庭寺611-3

T E L / 072-293-1111

F A X / 072-293-1112

創 業 / 昭和35年8月1日

設 立 / 昭和37年2月21日

資本金 / 1,000万円

従業員 / 7名

社会貢献
自社開発の福祉機器で
社会貢献

も得意だ。20年のリーマン・ショックで経営危機に陥り、事業規模の縮小を余儀なくされていたが、少数精鋭の多能工が技術を守っていた。従来、日産1〜2個だった製水機部品を日産6〜8個に引き上げ、安定受注につながったのも治工具の自作ノウハウが役立った。また、自動化により、夜間の生産も可能にした。

本業で培った技術で社会貢献を果たそうというのが医療・福祉分野進出の狙いだ。医療従事者の労働環境の改善と、地域密着の医工連携モデル構築をめざしている。24年に発売した車椅子固定型の点滴スタンド「スマートボール」を皮切りに、現在はバリエーションを含む9製品を展開する。

樋原社長は「看護師のニーズは共通点が多い」と語る。現場の声を聞き、「ありそうでなかったモノ」を製品化していると語る。事業として売上の拡大は課題だが、販路が介護・福祉機器商社や介護タクシー業界に広がっており、見通しは明るい。今後は生産力の確保にも力を入れる。



自社開発製品の車椅子用ヘッドレスト



自社開発した「スマートボールI型」と「スマートキャッチャーIII-2型」



<https://www.hbrind.co.jp/>